

はじめに

愛媛大学は、昭和 24 年に新制国立大学として、松山高等学校、愛媛師範学校、愛媛青年師範学校、新居浜工業専門学校を母体として文理学部、教育学部、工学部の 3 学部で発足した。昭和 29 年には松山農科大学を母体とする農学部、昭和 48 年には新設の医学部が加わり、現在では法文学部、教育学部、理学部、医学部、工学部、農学部の 6 学部と大学院 7 研究科からなる学生約 1 万人を擁する四国最大の総合大学となった。その間、社会の知的・文化的水準の向上に貢献するとともに、さまざまな分野で多くの優れた人材を世に送り出してきた。

平成 16 年 4 月 1 日、愛媛大学は国立大学法人愛媛大学となり、国の一機関の立場を離れ独立した経営体として再出発することになった。この大変革期にあたり、「地域にあって輝く大学」を目指す愛媛大学は、その理念と目標を以下に定め、「愛媛大学憲章」を制定する。

愛媛大学の理念

■100 年の伝統に学ぶ

20 世紀を牽引した西洋型の進歩史観による近代化にかけりが見えて、いま世界はそして日本は新しい秩序と調和を求めて模索状態にある。不透明な未来を前にして国立大学法人として新たな歩みを始めた愛媛大学は、人類が平和で、持続可能な発展を遂げるという高邁な理想を追求するために世界の研究と教育の一翼を担うものである。

振り返れば、近代日本は幾多の困難で不確実な時代を克服してきた。愛媛大学もまたその前身校から多くの伝統を受け継ぎながら歴史の試練を乗り越えてきた。われわれは、先人たちが残した有形無形の遺産から学び、次の時代に向けた教育研究を発展させなければならない。

ここ愛媛の地は、俳句・短歌革新運動を先導した正岡子規に代表されるパイオニアたちを輩出し、新たな時代を切り拓く革新と進取の気概を醸成してきた。こうした歴史的・文化的背景を基礎に前身校は、「自由闊達な精神、自治と自立の意識」を確立し自主性を尊ぶ精神や人材を丹念に養成する気風を育ててきた。第二次世界大戦後、敗戦の混乱を乗り越えて平和国家の建設を目指す気運のなかで、新しい学校教育法に謳われた大学の目的「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開すること」を実現すべく、新制の国立愛媛大学は発足した。それ以降、世界情勢の荒波にもまれ困難な現実にも直面しながらも、先人たちは地域に立脚して平和で民主的な社会を建設するために尽くしてきた。これらの努力の賜物として今日の愛媛大学の伝統があることを改めて認識したい。

愛媛大学は、人類の未来を切り拓く人材を育成するために、「革新と進取の気概」をもちつつ、「自由な精神の上に自立した個人を養成」する伝統に学ぶ。そして、この伝統を踏まえながら、新しい理念と目標のもとに特色ある教育研究活動を展開する。

■ 知の共同体を築く

近年、日本社会のあり方は大きく変貌した。昔、地域には若い世代の成長を大人社会全体が見守る共同体が存在し、その中で若者の先輩・後輩が相互に影響を与えながらアイデンティティを確立した。しかし今や、子どもから大人への社会的教育機能を備えた共同体はほとんど消失してしまい、その機能の大半は社会制度としての学校教育の中で担われるようになった。若者たちの社会的成熟が遅れがちな今日、大学もその責務の埒外にあるわけではない。これからの大学は、かつて共同体がもっていた人間育成の機能を強く意識しながら、大学の使命である人材の育成と知の創造に取り組まなければならない。

愛媛大学は、構成員である学生、教職員それぞれがのびやかで生气溢れる活動が行えるよう、世代の壁を超えた知の共同体の確立を目指す。そのためには、個を尊重しつつ、相互に協調し啓発しあう人間関係の構築が必要となる。その中でこそ、新たな知が共有され、教育研究の機能が十全に発揮される。経験を積んだ研究者の高い研究意欲は若い世代の刺激となり、一方、若い世代の新鮮な発想と問題意識は新たな教育研究への原動力となる。新しい世代は、先学の知識を学び取るとともに、その限界を批判し、やがて従来の到達点を乗り越えていく。このような絶えざる知的発展を促す循環の中においてこそ、大学の活力は保たれる。

それでは、こうした創造的なプロセスが発展するためにはどのような条件を備えていなければならないか。それは一言でいって、すべての構成員が人として対等な立場に立ち、人権の尊重に基礎を置く知的な交流が学内のあらゆる場において保証されることである。愛媛大学は、知の共同体を確立し、先学の努力に深い理解と敬意をもちつつ、自らの知的見解を率直かつ大胆に表明できる若い知性を育成する。

■ 「地域とともに輝く大学」を創る

国立大学から国立大学法人への設置形態の変更は、愛媛大学が発足してから半世紀余りの間でもっとも大きな改革であったのは言うまでもない。この改革によって、目標・計画の立案をはじめ管理運営の大部分が大学の裁量にゆだねられることになり、従来にくらべて格段に自主性・自律性が増すことになった。愛媛大学は、この利点を最大限に生かして、「地域とともに輝く大学」の実現に向け、勇気をもって改革を推進する。

愛媛大学は、設立当初から地域の学術交流の拠点としての使命と役割を担い、地域の理解と支援のもとで発展してきた。この地域性は、大学法人となった今、これまで以上に強く意識されなければならない。ここ愛媛の地は、緑濃い山々と波静かな瀬戸内海に囲まれ、みかんの爽やかな香りが漂う気候温暖な地である。この自然風土が、四国遍路の「お接待」に代表される人々の心根のやさしさや営みの豊かさを育んできた。かつて、この地の人々は自然との身近なふれ合いの中で、自然からの授かり物を糧とし、地域の伝統的文化を守りながら豊かな暮らしを享受してきた。しかし今日では、時空間距離が短縮し、情報交換や人的・物的交流が不自由なく行われるようになり、全国的な生活様式の均一化にともなって人々の意識も急速に変わろうとしている。このような時代にあって、地域住民や行政は自らの文化や歴史を再認識し、自立した地域社会を再生しようと努力している。地域にある総合大学として愛媛大学は、地域の諸課題の解決に向けて、地域の人々とともに考え、

行動し、地域社会の自律的発展を支援し、地域から評価され信頼される大学になることを目指す。

愛媛大学は、法人化を契機に、大学が次代を担う若い世代を育てる教育機関であるという原点にもどる。今まで以上に教育機能を充実させ、学生が入学から卒業・修了までの過程で、自立した個人として人生を生きていくのに必要な能力を習得できる機会と場を提供する。そして、専門知識を習得することのみならず、社会人になってからも主体的に学ぶことのできる能力、すなわち「学ぶ力」を身につけることを重視する。これからの愛媛大学は、学生中心の大学を標榜し、上に述べた知の共同体を確立して、その中で自ら学び、考え、実践する能力を習得できる教育体制と環境を整備する。

愛媛大学の目標

■教育

愛媛大学は、豊かな創造性、人間性、社会性を備え、次代を担う自覚と誇りをもつ優れた人材を社会に送り出すことを最大の使命とする。とくに、地域に役立つ人材、地域の発展を牽引する人材を輩出することは、地域に立脚する大学の不可欠な地域貢献であると自覚する。これらの使命を果たすために、多様な個性と資質を有する学生を広く受け入れ、入学から卒業・修了までの過程で学生が広い視野を身につけ、自ら学び、考え、実践する能力を習得できる教育体制と環境を整備する。

愛媛大学は、地域社会、国際社会のなかで主体的に生きるのに必要な自己実現のための基礎能力としての知の運用能力と国際的コミュニケーション能力をとくに重視する。そのために、専門分野の知識の習得とともに、情報収集・発信の能力、記述・論述の能力、対話・討論の能力を培う教育を充実させる。また、地域・環境・生命の3つの主題に関連する教育にも力を注ぎ、地域の現場から問題を発見し解決策を見いだす能力を養うために、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティア活動等の実体験型教育を推進する。さらに、人文科学、社会科学、自然科学の幅広い分野の成果とその限界が理解できる総合的な教育を実施し、地球環境問題や生命倫理等の現代的課題に対して広い視野と論理的思考に基づき客観的に判断できる能力を養成する。大学院教育においては、学部教育を基盤に、人間・社会・自然への深い洞察に基づく総合的判断力と専門分野の高度な学識と技能を身につけることを目標とする。

愛媛大学は、これらの目標を実現するために、学生中心の大学作りに努める。その眼目は、学生が入学から卒業・修了まで安心して充実した大学生活を送ることができ、そのなかで幅広い教養と十分な専門知識を身につけ、人間的にも大きく成長できる機会と場を提供することにある。そのための方策として、教員の弾力的な役割分担を推し進め、教育改善を中心的に担う教員や学生支援に関する専門的教職員を全学的に配置する。また、教員の教育活動を正當に評価するシステムを築くとともに、教育業務に関する教職員の意識改革を図る。

■研究

今日、人類を取り巻く多くの課題は、特定の専門分野だけでは解決できない広がりや複雑

さをもっており、人文科学、社会科学、自然科学の統合的な対応が求められている。知の拠点である大学は、多様な知の創造を図り、その統合を志向することによって、人類の未来に知恵をもたらす使命を帯びている。愛媛大学は、この使命を強く意識しながら、基礎科学の推進と応用科学の展開を図り、新しい知の創造と科学技術の発展に向けた学術研究を実践する。とりわけ、地域にある総合大学として、もてる知的・人的資源を生かし、地域・環境・生命を主題とする複合的・総合的分野の研究を重点的に推進する。

もとより、知の創造は個々の研究者の自由な発想や創意工夫を基調とするものである。しかし、その進展を確実なものにし、さらなる展開を期すためには、組織的な支援体制が必要である。愛媛大学は、先見性や独創性のある萌芽的研究を発掘し育成する体制を整備する。また、学際的なプロジェクト研究を推進するとともに、社会的要請のある現代的課題に対して機動的なプロジェクトチームを編成して取り組む。さらに、優れた先端的研究グループを研究センター等に組織化して、世界レベルの研究拠点の形成に努める。このようなグループ形成・拠点形成の促進のために、学内のマネジメント体制を整備し、人的資源、研究資金、研究スペースの弾力的運用と重点的配分を可能にする。

大学における研究の活性化は、研究と表裏一体の関係にある教育・人材育成を抜きにしては語れない。大学の教育研究活動においては、世代の壁を超えて相互に協調し啓発しあう知的交流の場が常に保証されなければならない。愛媛大学が理想とするのは、学生と教員がともに学ぶ喜び・発見する喜びを分かち合い、知の創造と学修が共存する知の共同体である。そのような場においてこそ、独創的で世界をリードする研究の芽を育むことができると確信する。

■社会貢献

大学の最大の社会貢献が、学術研究成果の還元と若い人材の輩出であるのは言うまでもない。愛媛大学は、学術研究面では、地域・環境・生命を主題にした研究を推進するとともに、開かれた大学として学術成果をすみやかに地域に還元し、広く世界に発信することに努める。人材育成面では、幅広い教養と専門知識を基礎にして、地域社会、国際社会において実践的に貢献できる人間性豊かな人材を輩出することを目指す。

大学と社会との関係は、大学から社会への貢献に限定されるわけではない。大学の教育研究は、たえず社会の側から刺激を受け、それに応答するという性質をもっている。また、大学は共同、協力、支援等の関係を通じて社会から支えられている。すなわち、両者の関係は本質的に双方向的である。愛媛大学は、地域社会との連携、産業経済界や行政機関との連携、知的財産の活用、諸外国との学術交流・人的交流等を通して、自ら求めて社会と双方向的な関係を築く。そして、この双方向的な関係の中で、社会からの批判と期待を真摯に受け止め、自らの活動を不断に点検・評価する。

愛媛大学は、地域にある大学として地域社会との連携をとくに重視する。情報化が加速し国家・世界規模で社会の均一化が進む時代にあって、地域社会は自らの文化、歴史、伝統を再認識し、自律性を高めることが求められている。愛媛大学は、産業、経済・経営、行政、文化、教育、医療、福祉等の幅広い分野において最高水準の知識と技術を提供すると

ともに、地域の諸課題の解決に向けて地域の人々とともに考え、行動し、地域社会の自律的發展に貢献し、地域から信頼される存在となることを目指す。

■大学運営

国立大学法人として独立した経営体となった愛媛大学は、大学の機能を活性化させるための施策を自らの責任において立案し、実現を図らなければならない。そのためには、大学の特性と現状の批判的分析の上から立って明確な目標・計画を定め、その上で人的・物的資源を最大限活用して自らの総合的ポテンシャルを高めていく経営戦略が必要となる。

もとより大学は、学内の各組織の構成員が自己の使命と役割に応じた日常の研鑽を重ねる中で個を確立し、同時に、他の構成員の主体的活動をも認めて連携・協調することによって成り立つ柔らかな組織体である。そこでは個人レベルの遂行力の総体が各組織および大学全体の総合的ポテンシャルになる。その一方で、大学が自律的な経営体として将来にわたる存立を確かなものにしていくには、組織レベルで取り組むべき経営政策上の多くの課題が存在する。全学的視野に立って教育・研究・社会貢献の活動を既成の枠を越えて組織化し、大学機能の向上を図ることは、総合大学として継続的に模索すべき方向である。また、教員の適性や経験に合った職務の役割分担や事務職員の計画的養成と専門性に応じた適正配置は、人的資源を有効に活用するために推進すべき施策である。

このような大学機能の高度化へ向けた改革を担保するためには、学長を中心とする管理運営組織が、適切にして強力なリーダーシップを発揮する必要がある。愛媛大学は、外部の声を反映させながら、常に未来を見つめて自己革新を断行し、機動的で戦略的な大学経営を行う。

愛媛大学憲章

愛媛大学は、平成16年4月1日に国立大学法人愛媛大学となり、国の組織から独立した経営体として再出発することになった。愛媛大学は、学校教育法に謳われた大学の目的を踏まえ、自ら学び、考え、実践する能力と次代を担う誇りをもつ人間性豊かな人材を社会に輩出することを最大の使命とする。とりわけ、地域に立脚する大学として、地域に役立つ人材、地域の発展を牽引する人材の養成がこれからの主要な責務であると自覚する。知の創造と知の継承を担う学術拠点として愛媛大学は、基本目標を以下に定め、全構成員の指針とする。

■基本目標

教育

- 愛媛大学は、学生が豊かな創造性、人間性、社会性を培うとともに、自立した個人として生きていくのに必要な知の運用能力、国際的コミュニケーション能力、論理的判断能力を高める教育を実践する。
- 愛媛大学は、地域・環境・生命に関連する教育に力を注ぎ、地域の現場から課題を発見し解決策を見いだす能力を育成する。
- 大学院においては、人間・社会・自然への深い洞察に基づく総合的判断力と専門分野の高度な学識と技能が身につく教育を実施する。
- 愛媛大学は、学生が入学から卒業・修了まで安心して充実した大学生活を送ることができる学生支援体制を築く。

研究

- 愛媛大学は、基礎科学の推進と応用科学の展開を図り、知の創造と知の統合に向けた学術研究を実践する。
- 愛媛大学は、地域にある総合大学として、もてる知的・人的資源を生かし、地域・環境・生命を主題とする学術研究を重点的に推進する。
- 愛媛大学は、先見性や独創性のある研究グループを組織的に支援し、世界レベルの研究拠点形成を目指す。

社会貢献

- 愛媛大学は、学術研究成果の還元と優れた人材の輩出を通して、社会の持続可能な発展、人類と自然環境の調和、世界平和に貢献する。
- 愛媛大学は、産業、文化、医療等の幅広い分野において最高水準の知識と技術を地域に提供するとともに、地域の諸課題の解決に向けて人々とともに考え、行動し、地域社会の自律的発展に貢献する。

大学運営

- 愛媛大学は、相互に協調し啓発しあう人間関係を基調とした知の共同体を構築し、構成員の自発的・主体的活動を尊重する。
- 愛媛大学は、大学の特性と現状の批判的分析の上に立って明確な目標・計画を定め、機動的で戦略的な大学経営を行う。